

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2393000415		
法人名	社会福祉法人志楽園福祉会		
事業所名	グループホーム猿投の楽園		
所在地	豊田市加納町向井山9-1		
自己評価作成日	平成30年 8月11日	評価結果市町村受理日	平成30年10月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JivvosyoCd=2393000415-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター
所在地	愛知県名古屋市長左京山104番地 加福ビル左京山1F
訪問調査日	平成30年 8月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入所後も、ご家族には気兼ねなく来所頂けるような環境(雰囲気)・関係構築に努めている。そのうえでご利用者とご家族の関係が維持できるよう、状況に応じて支援の協力をお願いしている。また外泊や入院による今後について等、ご家族の不安に対しては都度、ご相談頂ける機会を設け対応している。ご利用者の日常生活においては必要以上の支援とならないよう、ご自分で出来ないところを支援する考えのもと進めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホーム開設から約2年が経過し、管理者、リーダーを中心に着実に職員のチームワークを醸成し、利用者本位の支援に力を注ぎ、利用者と職員が共に笑顔で過ごすホームが実現している。職員は利用者を常に敬い、利用者の出来ることは無用な支援を避け、得意なことは利用者が主役となって活躍する生きがいの場を提供している。
 利用者はホーム内の掃除、洗濯物の取り込みから片付け、エプロン姿でのご飯・味噌汁の盛り付け、食事後の皿洗い等、家事全般に率先して関わっている。尺八の演奏の得意な利用者は日々練習を欠かさず、ホーム初の家族会に尺八の演奏を披露した。参加した利用者、家族、職員の喝采を浴び、演奏を終えた利用者は感激のあまり涙を流すというドラマチックな機会となった。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニット内に事業所理念「入居者様を敬い、個々の思いに寄り添い、笑いある生活」を掲げ、皆で共有している	ホーム独自の運営理念は、職員の話し合いを経て総意で決めている。理念の骨子である「利用者を敬う、思いに寄り添う、笑いある」を職員の日々の支援に反映し実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事には参加できるようにしており、また地域の方々も理解頂いている。また併設特養とあわせて地域交流イベント(夏まつり等)を開催している。	地域から春・秋の地域交流行事の招待を受け、会場に利用者の席を確保する思いやりの関係を築いている。地域の中学校の文化祭に利用者を出かしている。ホームを認知症カフェの会場とし、地域を受入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	併設の地域包括支援センターの協力を得て、ご利用者と共に認知症カフェに参加したりしているが、地域の人々に向けて十分には活かしきれていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	取り組み状況等について報告をし、出席者から出た意見については取り入れている	家族、地域、行政の参加を得て、年6回の運営推進会議を開催している。利用者の事故、ヒヤリハットの報告、ホームの課題を提起して意見を交換している。参加者の要望である会議資料の1部グラフ化を実現させた。	同業者等のホームに関わる知見者の参加を働きかけ、更に多くの視点から意見を交換し、実践に反映するよう考慮したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者にて市町村担当者とは事業所の現状を伝えながら相談できる関係作りを行っている	ホームから報告、手続きに市を訪問している。市主催のホーム連絡会に参加し、他ホームや市と情報交換や研修計画等に連携する関係を築いている。ホームを認知症カフェの会場として提供している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員が正しく理解するよう勉強会の開催、玄関も開錠しているなど、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム内の勉強会を実施し、3ヶ月ごとに職員会議を通じ拘束について振返ることとしている。ホームの入口は開錠し、利用者が外に出る場合は制止せずに職員の同行、見守りに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者が講習も受けて職員へ周知し、防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が講習を受けて職員へ周知するが、活用までは未だ至っていない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者やご家族が理解・納得頂けるよう、管理者が行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱の設置ならび、意見・要望があれば運営に反映するよう努めている	家族の訪問は頻回にあり、職員は笑顔で優しく家族を迎えて意見の収集に努め、職員に共有している。家族から、「利用者の状態の変化を初動段階に伝えて欲しい」との要望があり、個別に応じている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月例会議にて意見や要望を聞く機会を設け、反映に努めている	職員会議を月1回開催しており、職員は気兼ねなく意見を表している。管理者は定期的個人面談に加え職員の誕生日にホールケーキを手交し、打ち解けた雰囲気の中で話を聞く機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者へ管理者から運営状況を定期報告のうえ、職場環境・条件の整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で月例研修の開催、また、必要であると考えうる職員へは外部研修を受ける機会を設けている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	豊田市グループホーム分科会等に参加し、同業者との意見交流、勉強会への職員参加等、質の向上に取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者、ご家族からは事前に要望等をお聞きし、入所以降も申し出等あればお聞きのおえ、安心を確保する関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前、入所以降も含めて、ご家族が安心してご相談頂けるよう、関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、ご家族からの要望を受け、必要とされるサービスを見極めて支援内容に組み込むよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は介護・支援する側のみの意識・実践とならないよう、利用者と日々関わりを持つなかで一緒に生活を共にする関係構築に努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人とご家族との関係を大切に考え、入所以降も良好な関係が維持できるよう、一緒に支えていく関係づくりに努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人・友人との馴染の機会が途切れないよう、面会・外出等の要望には実現するよう協力対応している	家族と月命日に墓参りに出かけている。複数の利用者が個人的に新聞を購読し、玄関まで新聞を取りに行くことを日課としている。尺八の演奏が趣味の利用者は、居間で演奏して周囲の利用者に聞かせている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の良好な関わりが維持できるよう、日頃の生活においてコミュニケーションの契機作り等、支援に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用(契約)終了以降も、必要に応じて相談・支援できるよう、利用者・ご家族との関係作りに努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや要望をお聞きし、意向の把握に努め、月例会議等で職員全体で共有のうえ、対応を検討している	職員は利用者寄り添い、会話や仕草から利用者の思いや意向を把握し、日報や介護記録に記し、職員に共有している。介護記録は、利用者の会話をそのまま分かりやすく記録している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前はもとより、入所以降も日頃の会話のなかで生活歴等をお聞きし、経過の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のお過ごしの中で現状把握に努め、月例会議等を通じて、職員間で共有し、対応の統一に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、必要な関係者が話し合える機会を設け、意見やアイデアを反映できる介護計画の作成に努めている	利用者、家族、職員等が必要に応じて医療関係者の意見を確認し、6ヶ月を目処に、また変化の都度、介護計画を見直している。職員のモニタリングを毎月行い、次の介護計画の作成に役立てている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個別記録に記入し、職員間で共有のもと、必要に応じて介護計画の見直しを行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービスに捉われないよう、その時々要望に応じて柔軟に対応できるよう考え努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握はまだ足りないものの、本人の心身の力が発揮でき、安全で豊かな暮らしができるよう支援に努めている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を第一に考え、往診医もしくはかかりつけ医にて受診できるよう支援している	ホームのかかりつけ医は月2回の往診を行い、24時間の体制を敷いて利用者の健康管理に努めている。他科の通院は家族の同行とし、ホームは利用者の状態を書面にして託し、円滑な受診となるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診医ならび併設事業所の看護職員に相談等をし、適切な受診について支援に努めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は管理者が医療機関に伺い、担当医師・看護師と情報交換をする等、関係づくりを行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時、また定期的ならび状態に応じて話し合いのうえ、重度化した場合や終末期の対応に取り組んでいる	入居時にホームの看取りの指針を家族に説明している。重度化してホームでの暮らしの難しい場合は、家族、関係者を交えて話し合い、同法人の特別養護老人ホームの他、次の適切な棲家への移行を親身に支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時は往診医へ連絡のもと指示を仰ぎ対応するが、職員に対しての応急手当や初期対応の訓練は行えていない		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員ならび利用者と共に定期的な避難訓練を行っているが、そのような災害時での地域との協力体制については未だ構築できていない	年2回、昼夜の火災想定での避難訓練を実施している。通報装置、スプリンクラー等の防災設備を完備し、事務所に避難経路図を掲示している。十分な飲食の備蓄を整えて有事に備えている。	消防署立会い、通報訓練、職員の防災設備の操作習得、災害時の地域相互協力の関係構築等々、さらなる防災についての種々の取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人格を尊重し、敬う気持ちで声掛け、対応に努めている	利用者への支援は、事前説明のうえ理解を得て行き、職員都合とならないよう心掛けている。自立度の高い利用者の入浴、トイレは外から見守るよう配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が自己決定できるような声掛けを心掛けて対応している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者皆さんとの生活時間で大きな一日の流れはあるが、一人ひとりのペースを大切に考え支援に努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員側も意識を高く持ち、利用者が身だしなみを意識されるよう支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	副食は施設厨房で行っているため調理行程はないが、以外の炊飯や汁をよそったり、食器洗い・片付け等は、利用者と職員が行っている	ホームは法人の複合施設の中にあり、共同厨房で調理された温かい食事を楽しんでいる。ひな祭りのちらし寿司、土用の丑のうな丼と、季節を感じる食事の提供は利用者の楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は栄養バランスが考えられており、水分量は一日摂取量を定めて、一人一人に応じた方法で支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	清潔な口腔状態が保てるよう、職員が意識を高くもち、口腔ケアの確認ならび必要に応じた口腔ケアの介助を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排せつ記録を記入のうえ、排泄パターンの把握に努め、トイレでの排泄を支援している	自立してトイレを利用する利用者の多いことから、職員は無用な支援を避けて見守りに徹し、現状の継続に努めている。入居時失禁の多かった利用者は、適切な声掛け・誘導によりトイレでの排泄に改善している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取はもとよりオリゴ糖の摂取や軽度な運動など、出来る限り薬に頼らないよう努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	日中の時間帯での入浴となるが、その日のお気持ちも考慮して、ゆっくり入浴して頂けるよう努めている	週2回の入浴を支援している。入浴を楽しめるよう利用者ごとにお湯を入れ替え、全員が湯船での入浴を楽しんでいる。希望の湯の温度、入浴時間、長湯の他、希望があれば入浴剤を使用する等の対応もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣の把握に努め、夜間安眠できるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が薬の目的が理解できるようファイルにて管理し、服薬介助には最大の注意を払い、変化があれば往診医への連絡、記録するよう努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴やできること、趣味嗜好を理解し、笑いある生活を過ごせるよう努めている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望に沿っての外出は難しいものの、その日の状況みて個別の館外散歩を行ったりしている。また、利用者皆さんとの外出は意識して計画・実行に移している	気候を考慮した周辺の散歩を、外気に触れ気分転換をする機会としている。中学校の文化祭見学、地域の春、秋の交流行事、認知症カフェ等に外出している。利用者と家族との同伴外出の際は、介護の助言を行う等の支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は理解しており、外出の際は利用者が直接お金を所持したり使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者個人で所有している携帯電話での通話はもとより、依頼に応じて家族や友人知人への連絡対応にも努めている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間において特に不快や混乱を招くような刺激はなく、また日々の生活のなかで利用者皆さんで共用スペースに季節感ある作品づくりを行い飾っていただくことで、ご自分たちの空間作りへとつなげている	毎日掃除を行い、ホーム内は清潔な空間である。利用者は相性を考慮したりリビングのテーブル席に座り、食事やレクリエーションを笑顔で楽しんでいる。壁に季節を感じる飾りつけを施し、食事中は優しい音楽を流している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間(食堂)には個々のイス以外にもソファもあり、利用者同士で座られテレビをご覧になったり会話されたりしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の使い慣れた物品等は持ち込んで頂き、安心頂ける生活空間になるよう努めている	心地良く過ごせるよう、畳に布団を敷く習慣の利用者は居室に敷物を準備し、布団を敷いて就寝している。家族の写真、テレビ、扇風機、観葉植物、購読新聞、目覚まし時計、位牌、仏具等を自由に持ち込んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの生活行動のなかで安全にかつできるだけ自立した生活となるよう生活導線においての設備の位置等には配慮している		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2393000415		
法人名	社会福祉法人志楽園福祉会		
事業所名	グループホーム猿投の楽園		
所在地	豊田市加納町向井山9-1		
自己評価作成日	平成30年 8月11日	評価結果市町村受理日	平成30年10月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JigyosyoCd=2393000415-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成30年 8月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入所後も、ご家族には気兼ねなく来所頂けるような環境(雰囲気)・関係構築に努めている。そのうえでご利用者とご家族の関係が維持できるよう、状況に応じて支援の協力をお願いしている。また外泊や入院による今後について等、ご家族の不安に対しては都度、ご相談頂ける機会を設け対応している。ご利用者の日常生活においては必要以上の支援とならないよう、ご自分で出来ないところを支援する考えのもと進めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニット内に事業所理念「入居者様を敬い、個々の思いに寄り添い、笑いある生活」を掲げ、皆で共有している		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事には参加できるようにしており、また地域の方々も理解頂いている。また併設特養とあわせて地域交流イベント(夏まつり等)を開催している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	併設の地域包括支援センターの協力を得て、ご利用者と共に認知症カフェに参加したりしているが、地域の人々に向けて十分には活かしきれていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	取り組み状況等について報告をし、出席者から出た意見については取り入れている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者にて市町村担当者とは事業所の現状を伝えながら相談できる関係作りを行っている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員が正しく理解するよう勉強会の開催、玄関も開錠しているなど、身体拘束をしないケアに取り組んでいる		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者が講習も受けて職員へ周知し、防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が講習を受けて職員へ周知するが、活用までは未だ至っていない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者やご家族が理解・納得頂けるよう、管理者が行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱の設置ならび、意見・要望があれば運営に反映するよう努めている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月例会議にて意見や要望を聞く機会を設け、反映に努めている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者へ管理者から運営状況を定期報告のうえ、職場環境・条件の整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で月例研修の開催、また、必要であると考えうる職員へは外部研修を受ける機会を設けている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	豊田市グループホーム分科会等に参加し、同業者との意見交流、勉強会への職員参加等、質の向上に取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者、ご家族からは事前に要望等をお聞きし、入所以降も申し出等あればお聞きのおえ、安心を確保する関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前、入所以降も含めて、ご家族が安心してご相談頂けるよう、関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、ご家族からの要望を受け、必要とされるサービスを見極めて支援内容に組み込むよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は介護・支援する側のみの意識・実践とならないよう、利用者と日々関わりを持つなかで一緒に生活を共にする関係構築に努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人とご家族との関係を大切に考え、入所以降も良好な関係が維持できるよう、一緒に支えていく関係づくりに努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人・友人との馴染の機会が途切れないよう、面会・外出等の要望には実現するよう協力対応している		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の良好な関わりが維持できるよう、日頃の生活においてコミュニケーションの契機作り等、支援に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用(契約)終了以降も、必要に応じて相談・支援できるよう、利用者・ご家族との関係作りに努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや要望をお聞きし、意向の把握に努め、月例会議等で職員全体で共有のうえ、対応を検討している		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前はもとより、入所以降も日頃の会話のなかで生活歴等をお聞きし、経過の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のお過ごしの中から現状把握に努め、月例会議等を通じて、職員間で共有し、対応の統一に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、必要な関係者が話し合える機会を設け、意見やアイデアを反映できる介護計画の作成に努めている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個別記録に記入し、職員間で共有のもと、必要に応じて介護計画の見直しを行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービスに捉われないよう、その時々要望に応じて柔軟に対応できるよう考え努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握はまだ足りないものの、本人の心身の力が発揮でき、安全で豊かな暮らしができるよう支援に努めている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を第一に考え、往診医もしくはかかりつけ医にて受診できるよう支援している		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診医ならび併設事業所の看護職員に相談等をし、適切な受診について支援に努めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は管理者が医療機関に伺い、担当医師・看護師と情報交換をする等、関係づくりを行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時、また定期的ならび状態に応じて話し合いのうえ、重度化した場合や終末期の対応に取り組んでいる		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時は往診医へ連絡のもと指示を仰ぎ対応するが、職員に対しての応急手当や初期対応の訓練は行っていない		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員ならび利用者と共に定期的な避難訓練を行っているが、そのような災害時での地域との協力体制については未だ構築できていない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人格を尊重し、敬う気持ちで声掛け、対応に努めている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が自己決定できるような声掛けを心掛けて対応している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者皆さんとの生活時間で大きな一日の流れはあるが、一人ひとりのペースを大切に考え支援に努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員側も意識を高く持ち、利用者が身だしなみを意識されるよう支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	副食は施設厨房で行っているため調理行程はないが、以外の炊飯や汁をよそったり、食器洗い・片付け等は、利用者と職員が行っている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は栄養バランスが考えられており、水分量は一日摂取量を定めて、一人一人に応じた方法で支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	清潔な口腔状態が保てるよう、職員が意識を高くもち、口腔ケアの確認ならび必要に応じた口腔ケアの介助を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排せつ記録を記入のうえ、排泄パターンの把握に努め、トイレでの排泄を支援している		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取はもとよりオリゴ糖の摂取や軽度な運動など、出来る限り薬に頼らないよう努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	日中の時間帯での入浴となるが、その日のお気持ちも考慮して、ゆっくり入浴して頂けるよう努めている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣の把握に努め、夜間安眠できるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が薬の目的が理解できるようファイルにて管理し、服薬介助には最大の注意を払い、変化があれば往診医への連絡、記録するよう努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴やできること、趣味嗜好を理解し、笑いある生活を過ごせるよう努めている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望に沿っての外出は難しいものの、その日の状況を見て個別の館外散歩を行ったりしている。また、利用者皆さんとの外出は意識して計画・実行に移している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は理解しており、外出の際は利用者が直接お金を所持したり使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者個人で所有している携帯電話での通話はもとより、依頼に応じて家族や友人知人への連絡対応にも努めている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間において特に不快や混乱を招くような刺激はなく、また日々の生活のなかで利用者皆さんで共用スペースに季節感ある作品づくりを行い飾っていただくことで、ご自分たちの空間作りへとつなげている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間(食堂)には個々のイス以外にもソファもあり、利用者同士で座られテレビをご覧になったり会話されたりしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の使い慣れた物品等は持ち込んで頂き、安心頂ける生活空間になるよう努めている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの生活行動のなかで安全にかつできるだけ自立した生活となるよう生活導線においての設備の位置等には配慮している		